

# 四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第57号(令和元年12月発行)

平成31年年3月1日(金)に平成31年定例会が開会され、3月20日(水)に一般質問と議案9件の審議が行われました。

一般質問では、荒木美幸議員(四日市市議会選出)と小島智子議員(三重県議会選出)が下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

## 主な質問・答弁要旨

荒木美幸議員



小島智子議員



○ **港にある様々な荷役機械や上屋等の施設点検にドローンを活用することで、目視ができない場所の点検や、アセットマネジメントの視点での長期的な経費節減につながるのではないかと。**

◎ 管理組合では、職員による日常的な埠頭内の巡視活動での点検や、主に民間事業者への委託による「四日市港管理組合インフラ長寿命化計画」に基づく定期点検を実施している。ドローンを活用することができれば、点検に係る時間の短縮や省力化が図られるとともに、これまで確認が困難であった箇所での点検が可能となるなど、効果的な施設の長寿命化につながることを期待できる。他の港湾における活用事例なども参考にしながら、施設の点検等におけるドローンの活用について検討を進め、積極的に取り入れたいと考える。

○ **工場夜景の人気の高まりにより発生する四日市地区におけるごみの問題、駐車場の整備、及びトイレについて、戦略計画の内容に沿って、対応を急ぐべきと考えるが、当局の見解を尋ねたい。**

◎ 駐車場やトイレについては、千歳運河周辺において、整備に向けて場所や規模を含めた具体的な検討をする旨、戦略計画に位置づけたので、土地の確保など四日市市にも相談していきたい。また「四日市コンビナート夜景マップ」へのトイレの有無の追記を働きかけたい。

○ **四日市港についての県民の認知度というのは、まだまだ低いと考えるが、三重県、あるいは県内他市町等ともっと連携してPRをしてはどうか。**

◎ 観光情報誌等への記事提供やホームページ等での積極的な情報発信、工場夜景人気、外国客船の寄港などにより、四日市港への来港者数は年々増加しているが、公園の利用や社会見学などは市内の方が大半であり、市内にとどまらずより広域に効果的にPRしていく必要があることは認識している。今後より一層、県や他市町の広報・観光部局等と連携を図り、四日市港の情報を発信するとともに、四日市港開港120周年を迎える本年は、四日市港を広く県内外の皆様を知っていただく絶好のチャンスなので、様々な機会を活用して、四日市港ならではの魅力を発信し、認知度向上に努めていく。

○ **四日市港の認知度を高めるために、子育て世代をターゲットとしてマルシェなど民間イベントを誘致してはどうか。**

◎ 四日市港においても、港まつりでのマルシェ開催や、市民団体の主催のポートビルでの絵本原画展、霞港公園駐車場でのマルシェなど成功事例があり、管理組合としても、公園の施設のリニューアルやPRにより、より一層利用いただけるよう取組を進めていく

※詳細な質問答弁等については、当組合議会ホームページ会議録をご覧ください。